

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 1F】

事業所番号	2371001674		
法人名	株式会社 フレンズホーム		
事業所名	フレンズハウス中島新町 1階		
所在地	名古屋市市中川区中島新町一丁目502番地		
自己評価作成日	平成30年9月20日	評価結果市町村受理日	平成31年1月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2371001674-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2371001674-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成30年10月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日を明るく楽しく、自宅で暮らしているように過ごしていただきたいと工夫している。特に室内は、利用者様が自由に暮らせる空間であるため、馴染みの家具や物を好きなように置いてもらい、気楽に過ごせるよう配慮している  
さりげない声掛けを行い、親しみと信頼関係を築くことに気を配り、打ち解けて生活する中で、残された能力を発揮できるように支援していきたいと、職員一同、同じ考えで、方向性を一つに持って努めている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームでは、利用者がホームで落ち着いた生活を継続することができるような支援が行われている。一人ひとりの個性を大切に考えながら、共同生活が困難な方についてもその方に合わせた支援に取り組んでいる。毎日の食事作りの際には、利用者の好みや嗜好等にも配慮しながら調理が行われており、食事が利用者の楽しみにつながる取り組みが行われている。運営法人を通じて行われている取り組みとして、定期的に開催している運営推進会議の際には、運営法人の関連事業所の職員も参加する機会をつくっており、事業所間での情報交換を行いながら、会議を通じて出された意見等をホームの運営に反映する取り組みが行われている。職員間の連携については、日常的に職員間で意見交換を行う時間をつくっており、利用者の意向等が職員による支援につながる取り組みが行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念は、見やすい所に貼ってあり、ミーティングなどで共有し、意見を言い、実践に努力し、安全に明るく生活している	運営法人の基本理念をホームの支援の基本と考えながら、ホームでの毎日の生活が前向きなものになることを目指した内容を掲げている。また、理念をホーム内に掲示しており、日常的な理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内の行事に参加したり、公園の草むしりを協力したり、利用者様と職員が近所に散歩にでかけている	ホームは地域の自治会に入り、地域で行われている行事の際にはホームからも参加する機会をつくり、交流につなげている。また、小学校や中学校との交流の機会をつくっており、地域貢献にも取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	見学に来てくれる方に、認知症でも楽しく過ごしている姿を見ていただいたり説明して、理解してもらっている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	毎回何をしたか報告し合い、それについて意見を言い、話し合っ、より良いサービスの向上につなげている	運営法人の代表者が地域の役員でもあり、当ホームの会議にも参加している。他にも、法人の関連事業所の職員も参加している。また、会議を通じて、地域に関する情報を得たり、ホーム運営に関する助言等を得る機会にもつながっている。	ホームからの働きかけもあり、家族の参加がえらようになってきている。ホームからの働きかけを継続しながら、会議への出席者が増えることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	保護係の方などは、密に連絡を取り合っている。ホームでの取り組みについても伝え、良い関係を築いている	ホームでは、生活保護の方の受け入れが行われており、市の担当部署との情報交換等が行われている。市の研修会等にも参加する機会をつくっている。また、地域包括支援センターとの情報交換の取り組みも行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	帰宅願望の強い方がいて、安全のために家族の了解のもと一時的に施錠をしているが、身体拘束はしていない	身体拘束を行わない方針のもとでの支援に取り組んでおり、フロアーの出入り口は開閉が可能であることで、職員間で連携した見守りが行われている。また、毎月のミーティング等を通じた検討会の機会がつけられている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	会議の時に虐待について話し合いを行っている 勉強会にも参加し、報告を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修があると順番に参加し、知識と理解を深めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約は、時間を掛けて説明し、疑問には丁寧に答えている。納得していただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族の方の意見や要望は、しっかり聞いている 言い易い雰囲気をつくっていると思える 大切なことはきちんと話し合っている	家族からの要望等については、内容にも合わせながら、ホーム管理者の他にも運営法人の事務局による対応も行われている体制である。また、毎月の利用者毎の便りの作成の他にも、毎月の行事カレンダーの発送が行われている。	ホームでは、現状、家族との交流会等の取り組みが行われていないこともあるため、今後に向けて、家族との交流の機会が増えるような取り組みにも期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	意見があれば、聞ける態勢は常に持っている 必要なことは、話し合えるようにしている	毎月のユニット会議を行いながら職員間で意見交換を行い、ホームの運営への反映につなげている。また、日常的にも毎日の申し送りをユニットで時間をずらして実施することで、管理者が日常的に職員と意見交換を行う時間をつくっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	定期的に昇給があり、残業はほとんど無い 意見は聞いて、より良い職場環境作りに努力している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	良い研修があれば順に受けてもらい、知識を得られるよう努めている 研修後はレポートを書いてもらい、皆で共有している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	全施設での、交流輪投げ大会、お祭りへの参加、他施設での勉強会などで、ネットワーク作りに取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	お話を聞きながら、ご本人の要望を理解し、介護計画などで対応している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	面会に来られた時など、家族の方と話し合い、納得していただいたり、その内容に対しては、きちんと対応するよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人と家族と話し合い、一番大事なことから行うよう対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	毎日を楽しく、食事をしたり、テレビを観たり、お話をしたりして、支え合える関係作りを心掛け過ごしている 自分でできることは、やっていただくよう取り組んでいる		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	本人の、毎日の生活状態をお話し、家族の意見を聞き、取り入れることなどがあれば、話し合いをしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	疎遠にならないよう、希望があれば連絡して来てもらう 家族の写真など居室に飾っている	入居前からの方との交流は、徐々に少なくなっている現状もあるが、利用者の中には、家族の協力も得ながら行きつけの美容院を継続する等、馴染みの方との関係継続にもつながっている。また、家族との食事や買い物を通じた外出の機会もつくられている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者様同士が話し合っている時を大事にし、関係を見守っていく		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	本人や家族からの相談があれば、その都度対応していく		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	言葉や表情などを気を付けて観ている できるだけ本人の思いに添っているが、できないこともあるので、そういう時は理解してもらえよう努めている	職員間で利用者を担当しているが、日常的に職員間で情報交換等を行いながら、利用者に関する意向等が日常の支援につながるような取り組みが行われている。毎月のカンファレンスの際には、利用者全員に関する確認と支援等の検討が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所の時の記録やADLを理解し、引き続き、あまり変わらない生活を送れるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日のバイタルチェックや、申し送りで、ほうれんそうを行い、日によって体調が違う方を把握、観察して、その日に合った介護をしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎日の暮らしの中で、問題点がでてきたら、その都度話し合い、必要であれば介護計画に入れる	介護計画は、3か月での見直しが行われており、毎月の職員間でのチェックを行いながら、3か月でのモニタリングを実施している。また、日常的にも専用のケアプランチェック表に記録を残しており、日常的な変化の把握につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録はしっかりと行っている 特別なことがあれば、その都度話し合い、大事なことはミーティングで話し合い、決めて統一している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	利用者様、ご家族のニーズに対応し、新たな問題は重視し、柔軟にサービスの在り方に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域のボランティアさんが慰問に来てくれるので、皆でフロアに集まり楽しんでいる		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回、掛かりつけ医の往診を受け、相談している 家族の希望する病院があれば、受診していただいている	協力医による定期的な訪問の他にも、随時の対応が行われていることで、協力医との柔軟な連携が行われている。受診についても、利用者の身体状態等に合わせた受診支援が行われている。また、週1回の訪問看護による健康チェック等の支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	定期的に訪問してくれる看護師さんに、生活の中での変化や、傷の手当など、気付いたことを伝え、相談したり、診ていただいている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院するとすぐサマリーを送り、利用者様の様子を把握してもらえるようにしている 病院とは、常に連絡を取り合っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所時に説明している 重度化してきた場合は、家族と、その後のことを十分に話し合い、何が一番良いかを考え合っている	利用者の身体状態が重くなった際にも支援可能な取り組みが行われており、利用者の中にはホームで最期を迎えた方もいる。運営ホームの関連に特養や有料老人ホームがあることで、次の生活場所への移行も可能であり、家族との話し合いが行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	訓練や勉強会を行っている 緊急時のマニュアルがあるので、それに添って行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に避難訓練を行っている 通報のやり方も、交代で身に付けている	年2回の避難訓練の際には、夜間を想定した訓練や通報装置の確認が行われている。水害が想定される地域でもあり、必要な対応が行われている。また、水や食料等の備蓄品については、フロア毎に確保している。	地域の方との協力関係が継続的なテーマでもある。近隣地域の宅地化が進み新たな住民が増えていることもあり、ホームからの働きかけにも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者様の気持ち、性格、人格を尊重し、それに合わせた言葉使いをし、安心していただいている	ホームの理念でもある「明るく、楽しく、元気よく」を職員間で共有し、利用者への支援の基本に考え、対応や言葉遣い等に関する注意喚起につなげている。また、定期的なカンファレンスの他にも、接遇にもつながる職員研修等の取り組みも行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の思いが届くよう話かけ、満足していただく		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者様一人ひとりのペースを大切にしている 一日々々の生活の流れを考慮しながら、希望があり、できることであれば対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	季節に合った衣類や、洗濯した衣類のほこりびやボタンが取れていないか注意している 外出するときは、本人の気に入った服装、装飾品など身に付けている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	ADL低下に伴い、食事作りは参加していないが、片付けは行っている 職員と利用者様は、一緒に、見守りながら楽しく食事をしている	メニューを職員で考え、利用者の好みや嗜好等にも配慮している。利用者の身体状態に合わせた食事形態の提供も行われている。おやつ作りや季節等に合わせた食事作りが行われている。また、食事の際には職員も一緒に食事を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食べる量や水分分量は、その人に合わせ調節して、全部食べてもらえるようにしている 人によっては、食べやすい大きさに切って出している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、声掛け誘導し、うがい、歯みがきなど、その人に合った方法で口腔ケアを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	トイレの排泄パターンを確認し、定期的に誘導したり、声掛けをしたりして、オムツ内での排泄を少なくしたり、失禁も少なくなるよう支援している	利用者全員の排泄記録を残しながら、日常的に職員間で情報を共有し、利用者に合わせて排泄支援につなげている。トイレでの排泄の継続を目指し、職員間での検討が行われている。また、医師、看護師との排泄に関する医療面での連携も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	定期的にバナナ、果物、乳酸菌飲料などを食事に付けている 水分補給には気を付け、運動もしている 便秘が長く続けば下剤も頓服」として使用する		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	一日の生活の流れがあるので、曜日や時間帯は決まってしまうが、順番はその人に合った番にしているし、利用者様のペースに合わせた入浴をしてもらっている	毎日の入浴の準備が行いながら、入浴を拒む方も定期的な入浴につながるような取り組みが行われている。利用者の身体状態に合わせた入浴介助や季節にも合わせた入浴も行われている。また、ホーム以外の入浴施設で入浴する取り組みも行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	高齢で体力も低下している方には、居室にて休んでもらっている 寝具を清潔にし、空調の希望を聞き、快適に眠れるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬を間違えないよう手渡しし、飲み込むのを確認している 大切な薬は、その用途を調べている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	午後おやつ時間の後にレクリエーションを行ったり、散歩したりしている 手芸や工作の得意な方は作品を飾ったり、踊りなど身体を動かすことの好きな方は、ボランティアさんの舞踏を楽しみにしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している。	声掛けで散歩や、希望されれば買い物に行くことができる お花見やいちご狩りなど、季節を楽しんだりしている 遠い所は家族と話し合い、行っていただいている	日常的にホーム周辺への散歩やスーパー等への外出が行われている。年間を通じて外出の機会をつくっており、季節に合わせた外出が行われている。また、県外の温泉施設への外出行事が行われており、利用者の楽しみにつなげている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	なるべく施設に預けてもらっているが、本人が理解でき希望されれば所持していただいている。買い物の時も支払ってもらっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯を持っている方が一人いる 希望があり理解できれば電話をかけていただいている 手紙も書いたものを投函してあげている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関、廊下、リビングに飾り物や季節のカレンダーなどがあり、入所者様に合わせた配置を工夫している 窓からの明かりで明るく、清潔にも心掛けている	リビングは採光が良く、利用者は日中を明るい雰囲気でも過ごしている。リビングや通路の壁には季節感にも配慮した飾り付けや利用者による作品の掲示が行われており、アットホームな雰囲気づくりに取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングにはテレビがあり一人で観ていることもできるし、テーブルの配置の工夫などで、利用者様2~3人でお話をされていることもある		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居の時に、今まで使用していたタンスや置物などを持って来ていただいているので、自分好みにしてあり、安心感があると思える	居室については、シンプルな雰囲気の方もいるが、利用者の中には使い慣れた鏡台等の家具類の持ち込みが行われており、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。また、利用者に合わせたベッド以外での生活にも対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	自室、リビングの自席、トイレ、浴室と、フラットに、コンパクトになっているので、歩行も危なくなく、自分で安心して過ごされている		